学校番号	323

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅰ	単位数	３単位	年次	１年次
使用教科書	改訂版　高等学校　数学Ⅰ　（数研出版）						
副教材等	クリアー数学Ⅰ＋A　（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

授業では、教科書の内容を中心的に学習していきます。日々の学習の仕方として、毎時間学習した内容（例題や練習問題）を、もう一度解くようにしましょう。また、同じ内容の問題が副教材のクリアーにもあります。こちらの問題も取り組んでみてください。

問題を解くときは、途中式や求め方なども記入しましょう。終わった後、答え合わせをするときは、答えが正しいのか誤りなのかだけを見るのではなく、解説をよく読んで、解き方や途中式にも目を通して、自分の力だけで解けるようになるまで、何度も取り組むようにしましょう。

2　学習の到達目標

数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を育成する。
(1) 数と式及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
(2) 命題の条件や結論に着目し，数や式を多面的にみたり，適切に変形したりする力や，データに着目し，適切な手法で分析を行い，問題解決の過程や結果を考察し判断したりする力を養う。
(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数と式，図形と計量，2 次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	命題の条件や結論に着目し，数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力，図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力，関数において，事象を的確に表現し，その特徴を表，式，グラフを相互に関連付けて考察する力，社会の事象などから，データの散らばりに着目し，分析を行い，問題を解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
一学期	数と式	・式の計算 ・実数 ・1次不等式	a：乗法公式や因数分解の公式の意味，不等式の性質を理解している。根号を含む式の加法，減法，乗法の計算ができる。また，分母の有理化ができる。 b：複雑な式についても，項を組み合わせる，降べきの順に整理するなどして見通しをよくすることで，因数分解をすることができる。実数を数直線上の点の座標として捉えられる。また，実数の大小関係と数直線を関係づけて考察することができる。 c：式の変形，整理などの工夫において，よりよい方法を考察しようとする。展開と因数分解の関係に着目し，因数分解の検算に展開を利用しようとする態度がある。不等式における解の意味について，等式における解と比較して，考察しようとする。	定期考査	定期考査、パフォーマンス課題	パフォーマンス課題、学習の振り返り
	集合と命題	・命題と条件 ・命題と証明	a：命題の必要条件・十分条件，逆・裏・対偶などを集合と関連付けて理解している。対偶による証明法や背理法のしくみを理解している。 b：命題が偽であることを示すには，反例を１つあげればよいことが理解できている。 c：命題と条件の違いや，命題と集合との関係について，積極的に理解しようとする。直接証明法では難しい命題も，対偶を用いた証明法や背理法を用いると鮮やかに証明できることに興味・関心をもち，実際に証明しようとする。	定期考査	定期考査、パフォーマンス課題	パフォーマンス課題、学習の振り返り

二学期	二次関数	・2次関数とグラフ ・2次関数の値の変化 ・2次方程式と2次不等式	a：平方完成を利用して，2 次関数のグラフの軸と頂点を調べ，グラフをかくことができる。2 次関数の最大値，最小値を求めることができる。2 次不等式を解くことができる。 b：定義域が変化するときや，グラフが動くときの最大値や最小値について，考察することができる。2 次関数のグラフと x 軸の共有点の個数や位置関係を判別式から考察することができる。2 次式が一定の符号をとるための条件を，グラフと関連させて考察することができる。 c：2 次関数のグラフと x 軸の位置関係を調べ，その意味を探ろうとする。2 次不等式を解くときに，図を積極的に利用する。	定期考査	定期考査、パフォーマンス課題	パフォーマンス課題、学習の振り返り
	データの分析	・データの整理 ・データの代表値 ・データの散らばりと四分位数 ・データの相関	a：データの分析における基本的な概念，原理・法則などを理解している。仮説検定の考え方を理解し，具体的な事象に当てはめて考えることができる。 b：データの散らばりの度合いをどのように数値化するかを考察することができる。複数のデータを，散らばりや変量間の関係などに着目し，適切な手法を選択して分析し，問題解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりすることができる。 c：身近な統計における代表値の意味について考察しようとする。相関関係と因果関係の違いについて考察しようとする。	定期考査	定期考査、パフォーマンス課題	パフォーマンス課題、学習の振り返り

三学期	図形と計量	・三角比 ・三角形への応用	a: 三角比や正弦定理・余弦定理を用いて平面図形や空間図形の計量をすることができる。正弦定理, 余弦定理を空間図形の計量に応用できる。 b: 三平方の定理をもとに三角比の相互関係を考察することができる。三角形の辺の長さや角の大きさと余弦定理との関係を考察することができる。空間図形への応用において, 適当な三角形に着目して考察することができる。 c: これまでに学習している数や図形の性質に関する拡張と対比し, 三角比を鋭角から一般角まで拡張して考察しようとする。正弦定理、余弦定理の図形的意味を考察する。	定期考査	定期考査、パフォーマンス課題	パフォーマンス課題、学習の振り返り

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度